

共同議長声明概要(仮訳)

(1)冒頭

- 7月11日、クアラルンプールにおいて、マレーシア、日本、パレスチナ(特別賓客)の三者が共同議長を務める形で、第4回CEAPAD閣僚級会合(CEAPAD IV)が開催。
- パレスチナはこの重要な時期におけるCEAPADパートナーの揺るぎない連帯と支援に深い感謝を表明。
- パレスチナは全てのCEAPADパートナーに対し、ガザへの人道援助の拡大、ガザの復旧・復興とパレスチナ全域における開発努力への貢献を呼びかけ。

(2)ガザ停戦、人道支援、パレスチナ国家の建設

- 民間人の犠牲と民間インフラの破壊を含む、ガザの人道状況に対する深刻な懸念を表明。(新規)
- 全ての民間人の安全、保護、福祉を確保するため、全ての暴力が止まらなければならないと強調。(新規)
- パレスチナ全域でパレスチナ人のニーズに対応することが包摂的かつ持続的な発展において肝要。
- 国際法を完全に遵守してガザ全域で迅速、安全かつ妨げなく、大量の人道支援がガザ全域で行き渡ることを可能にするべく、ガザの即時かつ持続可能な停戦を呼びかけ。
- 国連憲章、国際法及び関連国連決議に従って、二国家解決に基づく、パレスチナ人の民族自決権への集団的コミットメントを再確認。

(3) CEAPADの重要性の再確認、CEAPADの強みとしての人材育成・能力開発・三角協力の提供

- 特にガザにおける喫緊の人道支援ニーズに加え、膨大な早期復旧・復興ニーズが発生する中、パレスチナのニーズに対応するための**国際社会全体の取組の必要性**を共有。
- 東アジア諸国のリソースや経済発展の知見を活かして**パレスチナの国づくりを支援**し、中東和平の実現に資するために2013年に日本が立ち上げた**CEAPADの重要な役割を再確認**。
- 緊急の人道的対応、早期復旧と復興、パレスチナ全体の社会経済的発展、制度改革(PA改革)とガバナンスなどの重要な分野において、パレスチナ人のニーズに緊急に対応するために**CEAPADの枠組を再活性化**することで一致。
- **人材育成**や**能力開発**を目的とする**技術協力事業の個別協力**や**三角協力**の形での実施を通じ、参加国・機関**それぞれの強み**を活かすことによって、CEAPADパートナーシップを推進。

(4) 国際社会による支援

- **UNRWA**を含む人道機関との継続的パートナーシップや、**OCHAフラッシュアップ**活用の必要性を強調。
- アラブ・イスラム諸国が主体的に国際社会に示している、**ガザ住民のための復興のビジョン**の重要性を想起。

(5) パレスチナのイニシアティブによる経済的自立、復興・社会経済開発

- こうした取組は、(支援の)一貫性、持続可能性、パレスチナ主導の優先事項の前進を確保するために、**「パレスチナ開発改革計画」を含む開発枠組みの実施を補完**する。
- 永続的な平和と安定を実現するにはパレスチナ全体の**経済的自立**が不可欠であるとの認識の下、ガザの復興及びパレスチナの社会経済開発における**民間セクターの役割**を含めたマルチステークホルダー・パートナーシップの重要性を強調。
- 女性や若者、周縁化されたコミュニティの積極的な参加を確保し、**包摂的**な開発の重要性を強調。

(6)日本とマレーシアのイニシアティブ

- 日本の「**平和と繁栄の回廊**」構想の旗艦事業である「**ジェリコ農産加工団地(JAIP)**」といった成功事業や、マレーシア技術協力プログラム(MTCP)を含む過去20年間のマレーシアの対パレスチナ支援を想起。

(7)CEAPAD行動計画の採択(付属文書)

- パレスチナのニーズに基づき、現地の実情に見合った**CEAPADパートナーシップの優先分野**を包含する、「**CEAPAD4クアラルンプール行動計画**」を採択。
- 同行動計画は、CEAPADパートナーが**パレスチナ支援を強化、活性化、調整、相乗化**するための**指針**。

(8)第4回CEAPAD閣僚級会合のフォローアップ

- **次回のCEAPAD閣僚級会合**に向けて、CEAPAD行動計画の進捗をフォローアップするため、**定期的に高級実務者会合(SOM)を開催**することで一致。

(9)ホスト国への謝意

- マレーシア政府のCEAPAD代表団に対する接遇に感謝。